

伊香学の Vol.6 チャタヌーガNOW!

米国チャタヌーガ市との交流を、派遣職員・伊香がお伝えします!

日本人会による茶道イベント



抹茶の味を堪能しました

市内のハンター博物館で8月19日、チャタヌーガ市在住日本人による茶道のデモンストレーションイベントが行われました。当日は、私も浴衣で参加。家族連れや日本文化に関心のある人など約80人が訪れ、日本の「おもてなし」を体験しました。

遠野の紹介プレゼンテーションを披露

8月28日には、奉仕活動団体の集会に出席。団体関係者らに、遠野市についてプレゼンテーションを行いました。発表では、市内を川が流れていることや山が見える風景があることなどを説明。参加者は、両市の地形的な共通点に関心を寄せていました。



団体関係者ら約40人を前に、遠野の紹介を行いました

9月8日 遠野わらすっこまつり&消防フェア

元気に遊び、しっかり学ぶ



1



3



2

1_よく狙って、放水開始! 2_ミニバックホー操作に挑戦 3_しゃぼん玉遊びに子どもたちの笑顔が弾けました

遠野わらすっこまつりと消防フェアは遠野運動公園集いの広場と総合防災センターを会場に初めて合同開催され、家族連れなど約2,000人が多彩なイベントを楽しみました。

このイベントは、本市の子育て・防災・教育への関心を高めるため、遠野わらすっこまつり実行委員会と市消防本部が主催。遠野運動公園では、しゃぼん玉遊びやゲーム・チャレンジコーナーのほか、昔遊びなどのブースを展開。親子で楽しめる催しに会場は大いに盛り上がりました。

総合防災センターでは、レスキュー体験や放水体験、消防車などの特殊車両の乗車体験などを実施。普段は触れることのできない特殊車両を前に、子どもたちの笑顔が会場に広がっていました。

8月30日 第20回「わたしの主張遠野地区大会」

中学生の思いが込められた言葉

地区大会は遠野東中を会場に開催され、市内3中学校から9人が出場。最優秀賞には「笑ってください 僕と一緒に」と題して発表した大久保星吾さん(遠野東中3)が選ばれました。



笑顔を持つ力を説く大久保さん

大久保さんは、東日本大震災で被災し苦しんだ経験を通じ「支え合い、笑顔で心をつなぐことが、頑張る力になる」と主張しました。

9月23日 サンパークやなぎで長寿を祝う

宮守町の熊谷タカさん100歳

タカさんの100歳を祝う会が開かれ、家族や職員らが祝福。本田市長が記念品を手渡すと、タカさんは「ありがとうございます」と感謝しました。タカさんは同町新町地区出身。結婚後は



本田市長から記念品を受け取るタカさん(右)

日は農業、夜は裁縫で生計を立て2男1女を育て上げました。現在は孫、ひ孫にも恵まれ、自宅で元気に過ごしています。

8月25日 第32回遠野市少年消防クラブ防火野球大会

全カプレーで防火を願う

少年消防クラブ防火野球大会(市少年消防クラブ育成会主催)は遠野運動公園野球場で開かれ、市内9チームが出場しました。開会式では、土淵野球スポーツ少年団の山崎



優勝を喜ぶ松崎野球スポーツ少年団員ら

光陽くんが「親に感謝し精一杯プレーします」と力強く宣誓。一生懸命白球を追う子どもたちに、家族らから大きな声援が送られました。

9月2日 市防災訓練を実施

その時、私たちがとる行動は?

防災訓練は市内自治会で行われ、約7,000人が参加しました。今回は地震を想定して避難勧告を発令。市民はシェイクアウト訓練後、ハザードマップに記載されている指定



毛布で作る簡易担架を学ぶ参加者

緊急避難場所などへ避難しました。一部の自治会では、消火訓練や心肺蘇生法訓練なども実施。参加者は、災害に備え防災意識を高めました。

8月25・26日・9月12日 遠野ホップ収穫祭2018&初仕込み式

遠野産ホップとビールにファン続々

遠野産ホップの収穫を祝い、歓喜の輪が広がりました。

遠野ホップ収穫祭(遠野ホップ収穫祭実行委員会主催)は、蔵の道ひろば特設会場で開かれ、会場には約7,500人のビールファンが来場。会場では遠野産ホップを使ったオリジナルビールやサワーなどの販売のほか、ダイヤモンドユカイさんのライブなど多彩なステージイベントを展開。

会場は熱気に包まれ、ホップの収穫を盛大に祝いました。

遠野産ホップを原料に使う「一番搾りとれたてホップ生ビール」の初仕込みは9月12日、仙台市の麒麟ビール(株)仙台工場で開催。出席した関係者ら約100人が良質なビールの完成を願いました。発売15年目を迎える「とれたて生ビール」は、10月23日から全国販売される予定です。



1_収穫したてのホップを手に取り香りも堪能 2_遠野産ホップにカンパイ! 3_初仕込みで遠野産ホップを醸造釜に投入する本田市長 4_今年のラベル

8月26日 第36回日本のふるさと遠野じんぎすかんマラソン

健脚競い遠野路を爽快に進む!

ハーフ・3・5・10kmのコース、全16部門で開かれたじんぎすかんマラソンには、全国各地から過去最多2,511人のランナーがエントリー。ラン

ナーは上位を目指し沿道からの声援を力に遠野路を駆け抜けました。ゴール後は、じんぎすかんやブルーベリー、ホップの若芽ソーセージが振る舞われ、ランナーたちは遠野の味を堪能していました。また、今年はハーフの部から台北マラソン2018への派遣が決定。レース後の抽選で4人が当選し、12月9日に台湾で開催される同大会へ出場予定です。



1_ランナーが勢いよく駆け出していきました 2_台北マラソン2018(台湾)の出場権を獲得し、驚喜選手